

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
生徒活動推進部	自主的な態度で自立的に行動できる生徒を育成し、自信と誇りを持たせる	生徒会、各種委員会活動の活性化	・自主的・自立的に行動できる生徒の育成をめざし、生徒自ら企画・実践を行い成功体験を得ることができるよう指導する	・各種活動において生徒会本部役員や各種委員会委員長、部キャプテンなどが集まり、生徒主導で計画を立案し、運営しているよう適切に指導する	・文化祭に代えて、文化部発表会を12月に生徒会主導で実施した。今後中止となった行事を再検討し、来年度に向けて実施の可能性を検討したい	B	・各種活動において生徒会本部役員や各種委員委員長、クラブキャプテンなどが集まり、生徒主導で計画を立案し、運営していけるよう指導する	○介護施設では新型コロナウイルス感染者のクラスターを出さないことが至上命令であるが、教育施設での実習はどのように対応しているか  →今年度の施設実習は全て中止し、代替として校内実習を行った。施設職員を講師として招聘し、施設職員による授業を18時間実施した。その際、マスクに加えてフェイスシールドを着用させ、感染予防を徹底した
		部活動の活性化	・部活動加入率の向上をめざすとともに、生徒の実態に応じた部活動の活性化をめざす	・新入生への勧誘活動を活性化させるとともに、部員集会や部員研修会を定期的に行い、部員生の自覚を促す	・部紹介の体育館実施は実現できなかったが、紙ベースや放送等でできる限りの勧誘活動を実施できた。野球部の再スタート等、前進した側面もあった	B	・クラブ顧問会議を各学期に1回以上行う ・宇陀高校への統合を機に、部活動の面で、大宇陀高校との連携を深める	
		芸術や文化に親しむ態度の育成	・朝の読書や読書に親しむ会を中心に読書習慣を身に付けさせ、豊かな人間性を育てる	・朝の読書に集中して取り組めるように、読み聞かせや放送なども念頭に、内容を工夫して展開する ・読書の啓発活動を創意工夫し、積極的に行う	・朝の読書が計画通り実施できなかったが、制約の多い中で、集中して取り組むことができた。朝読イベントは予定通り実施できなかった	B C	・朝の読書に集中して取り組めるように、放送での読み聞かせなども視野に入れ、内容を工夫する ・今後も読書活動の啓発を積極的に行う	
		地域交流および貢献活動の推進	・地域とともにある学校づくりをさらに充実させ、様々な活動に学校全体で参加できるような体制づくりをめざす	・地域貢献活動にたくさんの生徒が幅広く参加できるよう、参加案内や啓発方法を工夫する ・活動後の報告などを通して校外内に向けたPRを行う	・学校行事の中止が相次ぐ中、地域貢献活動に目を向ける生徒が、例年より多くなっているようである。他校の実施状況を参考にして、宇陀市との連携協定に向けて地域貢献の機会を増やしてゆきたい。	B	・地域貢献活動により多くの生徒が幅広く参加できるよう、参加案内や啓発方法を一層工夫する ・地域貢献活動後の報告などをWebページに報告する。	
こども・福祉科	社会福祉、保育・幼児教育の学びを通し、社会に貢献する人材の育成をめざす	適切な系列選択の実施	・「産業社会と人間」の授業を充実させ、各人の適性・希望に応じて適切に系列選択できるように指導する ・教員の共通理解をはかり生徒に指導する	・「産業社会と人間」で、系列選択についてのガイダンスを年5回以上行う ・こども・福祉科委員会の会議を年5回以上行う	・介護系列の定員が超過したので校内選考を実施したが、系列に入ることができなかった生徒が転学するという事態が起きてしまい、本学科の欠陥が露呈される結果となった	B	・系列選択に関しては、本年度の反省を生かし、来年度は一学期の最初から生徒の目的意識をしっかりと持たせて、より丁寧な指導を重ねていきたい	
		充実した体験学習の実施	・こども・福祉科で行う実習施設を確保し、来年度からの実習が円滑に行えるよう準備する	・保育・幼児教育実習施設を9施設確保する。 ・福祉施設を26施設確保する ・施設実習の計画を、系列の特色に応じて適切に作成する	・本年度の実習は全て中止となり、大変残念な結果となった ・来年度の実習先を確保することができたのは僥倖と言えよう	A	・より充実した実習を実現するために各施設・各園との意思の疎通を一層図り、よりよい実習内容を検討していきたい	
人間探究コース	小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を養成するコースとして、豊かな人間性と地域社会に貢献できるリーダーとしての資質の醸成をめざす	幼児教育・保育施設実習の実践と、その充実	・年間3日間の幼児教育・保育施設実習をはじめ、3週間の長期インターンシップや保育園との招待交流を実施し、経験値を増やしていく	・事前指導や事後指導の充実・徹底を図り、毎回レポート等の提出を義務付けて自己の体験を整理させ、その定着を図る	・新型コロナ感染症感染拡大の影響で全ての実習が中止になるのではと危惧したが、現場の園長先生方のご好意とご助力により実現できたことは大変ありがたいことであった	A	・来年度も各園との交流を密にし、できるだけ実習を実施することができるように努力していきたい。	
		ボランティア活動の実践と、その充実	・幼児教育・保育施設や地域社会・ユニセフ協会等のボランティア活動に積極的に参加し、ボランティアリーダーとしての資質向上を図る	・年間のボランティア活動への参加を一人6回以上になることをめざす	・ほぼ全てのボランティアが中止となり、評価の難しい年となった。来年度は実施できることを期待したい	A A	・来年度も楽観することはできそうもないが、可能な限り各方面と連絡を取り、引き続きボランティア活動の充実に努めたい	
福祉科	社会福祉に貢献できる人材の育成	国家試験合格率の向上	・国家試験対策講座を夏と冬に実施する ・医師・看護師等の講師を招聘する ・社会人非常勤登用講座を計画する	・3年生対象に年2回国家試験模擬試験を行い平均点80点以上をめざす ・「ここからだの理解」105時間の授業を担当する医師・看護師を確保する ・社会人講師(年間25時間)の授業を実施する	・国家試験の自己採点結果は平均84.9点であり目標を達成できた ・医師・看護師の授業は45/105時間の授業時間しか確保できなかった ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、社会人講師授業を中止せざるを得ない状況となり、予定どおりの授業数は実施できなかった。	A	・国家試験問題をできるだけ多く解かせることが効果的であった ・新型コロナウイルス感染症の感染が広がるなか、医療従事者や介護従事者の方々に学校にきていただくようお願いすることはためられるが、できるだけ多くの授業にきていただけるよう努めたい	
		施設での介護実習の充実	・けいかくどおりに実習ができるように、準備する ・巡回指導や反省会であらった指導者の意見を情報共有し、足並みをそろえた指導を行う	・欠席補習人数・欠席補習回数を40%減らす ・校内実習毎に、事前服装・頭髪点検を行い現場実習に対する意識を高める ・施設実習を行えない場合は、校内実習で対応する ・巡回指導を1施設週2回実施し、指導記録をとり、情報共有を図る	・施設実習に行けない分、校内での実習を工夫し実施することができた。施設職員の皆様の協力のもと実現することができ、感謝している ・来年度も施設実習に行くことは難しいと予想され、校内実習をさらに充実させたい。	A A	・来年度も施設実習に行けないことが予想されるため、GSfEの活用や事例学習など校内実習の内容を充実させる必要がある	
		「専攻科」の設置準備	・専攻科準備委員会を立ち上げ、設置準備を行う ・関係機関への広報活動を行う ・実習施設を探す	・準備委員会の設置を承認され検討会議を3回以上行う ・総合企画部と協力し「専攻科」の広報活動を行う ・実習施設を7施設確保する	・予定通りには準備が進まないことばかりであった ・準備委員会での打合せは随時行うことができた	A	・公立高校として、日本で初めての取組にチャレンジすることになる。入学した生徒が「この学校に入学してよかった」と思える専攻科にしていきたい	